

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 社内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
10120-4343-81

【広告】読売Palette

03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

9月15日(水曜日)
 旧 8月9日<仏滅>

■ あすの暦
 通日 258
 月齢 8.1
 (正午)



—東京標準—
 満潮 14.25
 21.53
 干潮 5.21
 17.55
 (小潮)
 日出 5.23
 日入 17.49
 月出 14.13
 月入 23.49

松本清張(1909~92年)は、推理小説「声」(「小説公園」昭和31年10月~11月)でも「武蔵野」を描きます。「声」は、警察が事件を解決する小説です。「東京都北多摩郡田無町」と事件現場となる地名が具体的に記され、「東京郊外も西のはずれで、西武線で高田馬場から四十五分もかかる」「何となく田舎じみた町」という説明がなされます。そして、「このあた

旧田無町(現在の西東京市)にある西東京いこいの森公園の雑木林



松本清張 ②

り一帯は、まだ武蔵野の名残りがあって、一めんに耕された平野には、ナラ、クヌギ、ケヤキ、赤松などの混った雑木林が至る所にある。武蔵野の林相は、横に匍っているのではなく、垂直な感じで、それもひどく繊細である。荒々

しさはない」と続き、殺人現場の背景に武蔵野が描写されます。田無に駆けつけた警視庁捜査一課の課長と係長も思わず国木田独歩の名前を口に、「犯罪を忘れたように、雑木林のつづく景色を見ながら「武蔵野の面影」談議に興じます。殺害されたのは、300人以上の声を瞬時に判別できる元電話交換手です。勤務中に偶然耳にした殺人犯の声を憶えていたため、ある時夫の仕事仲間が殺人犯であることを知ってしまいます。日ノ出町(豊島区)から指ヶ谷(文京区)に呼び出された彼女が殺害されたのは田無に近い小平でした。犯人一味は、田端や新宿や立川などに各自が時間を計算して移動しながらアリバイ工作をします。

おすすめの1冊

「松本清張全集36 短篇2」

「声」を収録した文庫本が現在絶版なので、全集を紹介します。同巻には「声」の他、映画化・ドラマ化された「鬼畜」なども収録されています。なお、多くの清張作品を読むことのできる全66巻の「松本清張全集」ですが、残念ながら実際には選集ですので、未収録の作品も多くあります。



(文藝春秋)

清張にとっては、「痩せ型で、細く鼻筋の通った美しい女」の死体を横たえるのにふさわしい「繊細な場所が「武蔵野」だったのかもしれない。その武蔵野のイメージを田無に見いだしたのが「声」という作品でした。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

繊細さ田無に見いだす

文人の武蔵野